



卒業生の活躍



# ビジネスにおいても光る、 法学部でのかけがえのない学び

アクセンチュア株式会社  
藤田 はるな (2021年法学部卒業)  
FUJITA Haruna

**私** は現在、コンサルティングファームの戦略部門にて仕事をしています。クライアントの事業戦略を立案することがメインの仕事であり、企業の中期経営計画策定や新規事業立案、M&A検討などを行っています。日本を代表する大企業の経営者の皆さまと一緒し、事業をより良くするための提案を常に求められる環境は大変ハードですが、やりがいも大きく学びの多い日々です。

ビジネスと法学のつながりは薄いと思われがちですが、法学部で得た学び・所作が日々の仕事を支える大きな柱の一つとなっています。具体的には、「①未知の分野を短期で構造的に理解し応用する手法」、「②物事の全体像・理想状態を俯瞰して現状を捉える考え方」の2点です。

まず「①未知の分野を短期で構造的に理解し応用する手法」は、法学部の通常授業・法学留学・ゼミのダイアクト活動を通して鍛えられたものです。幅広い領域の法律を判例解釈ができるレベルまで体系化して理解するということの繰り返しや、ダイアクトにて未知の国際法領域を短期間でリサーチし主張を立案する活動から、未知の分野を体系立てて学び、それを用いてアウトプットができるレベルにまで理解を深める手法が身に付きました。コンサルという仕事柄、プロジェクトごとにクライアントの業種・業態が変化するため、この力は不可欠なものです。



藤田さんが学生時代に出演した「明治大学 法学部 | 10学部10色のコンセプトムービー #01」はこちらをご覧ください

<https://www.meiji.ac.jp/stepinto/hogaku/>



卒業生の活躍



# 挑戦と可能性の明治

BofA証券株式会社  
向井 杏樹 (2020年法学部卒業)  
MUKAI Anju

法学部を2020年の3月に卒業し、社会人3年目に突入した2022年。私はシンガポールの同僚と日々の業務について英語でやりとりをしています。やっと新しい社会人生活にも慣れてきました。今の働き方は大学入学当初にイメージしていたものとはまったく違いました。

明治大学は前身が明治法律学校であったこと、また、法学部法律学科という学科設定になっていることから、入学前には、4年間法律を専門的に学び、法曹の道へ進むものだとばかり考えていました。しかし実際に入学してみると、法律科目だけでなく総合教養科目や外国語を必修として学べること、また、2年次からは卒業後の進路を想定した5つのコースが設置されており、柔軟なキャリア選択が可能であることを再確認し、進路についてじっくりと考える機会がありました。進路について可能性を広げてくれるこの制度のもと、1、2年次より、法学以外にも、



スタンフォード大学への留学

政治学や、社会思想史などの教養科目を学んだことで、法律と社会の関わり方を深く理解することができ、現在の金融業界での仕事につながっていると思います。また、法学部では留学に前向きに挑戦できるようさまざまなサポートが準備されており、教職員の皆さまの支えがあり、在学中には3校に留学することができました。協定校留学で、アメリカのノースイースタン大学、夏季プログラムでスタンフォード大学とペンシルベニア大学へ留学し、日本で学んだ刑法や国際法を、アメリカの視点から学ぶことができたのはとても貴重な経験でした。また留学前にも、英語で授業が行われる「Business Law English」や、英文契約書を学ぶ「法律英語」などを受講し、留学の準備がしっかりできただけでなく、これらの授業は厳しい制約のもと、英語を使って働く今の仕事に強く結びつけていると感じます。



上野ゼミにて久里浜少年院を訪れた際の一枚